

拝啓 いつしか落葉舞い夜寒の身にしみる季節となりましたが、その後先生にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このほどの結婚式におきましては、私たちのために、いろいろお世話くださり、ありがとうございました。お陰様で私たち二人、人並みに幸福な新生活をスタートすることができました。

しかし、先生がおっしゃってくださったように、結婚式はスタートにすぎませんから、これからこそ真価が問われると心を引き締め、二人で協力して一生懸命に頑張っていきたいと思っております。

今後もなにかといろいろお教えいただかなければならないことが多いと思います。どうか末長くご指導くださいますよう、改めてお願い申し上げます。

文末で恐縮ですが、向寒の候、ご自愛ください。

敬具